

# 土佐「城」さんぽ御城印ラリー

ニッポン城めぐり

施設内のQRコードを撮影して、**限定御城印**を集めよう！！

開催期間：令和4年11月15日(火)～令和5年2月28日(火)

スマートフォンのGPS機能を使い、日本全国に実在した3,000のお城を巡る無料のスタンプラリーアプリ「ニッポン城めぐり」。2010年のスタート以来、26万人以上の旅行・歴史好きの方に愛用されています。高知県では、昨年に続きアプリとのコラボ企画「土佐城さんぽ御城印ラリー」を実施します。

県内11ヶ所の  
城を制覇！



- |                    |                             |
|--------------------|-----------------------------|
| ①安芸城跡(安芸市立歴史民俗資料館) | ⑦蓮池城跡(地のもん市場ハレタ)            |
| ②岡豊城跡(高知県立歴史民俗資料館) | ⑧佐川城跡(旧浜口家住宅)               |
| ③高知城               | ⑨久礼城跡(道の駅なかとさ)              |
| ④大高坂城跡(高知城歴史博物館)   | ⑩姫野々城跡<br>(風車の駅津野町ふるさとセンター) |
| ⑤浦戸城跡(坂本龍馬記念館)     | ⑪中村城跡(四万十市郷土博物館)            |
| ⑥本山城跡(大原富枝文学館)     |                             |

各スポットにて条件をクリアすると、アプリ内で特典&「特製御城印」をゲット！

◇特典1

スポットごとに特製御城印をプレゼント！※各御城印の詳細については別紙をご覧ください。

【御城印セット配付場所&条件】

①安芸市立歴史民俗資料館	(安芸市土居953-イ	0887-34-3706)	条件/施設入館料
②高知県立歴史民俗資料館	(南国市岡豊町1099-1	088-862-2211)	条件/施設入館料
③高知城	(高知市丸ノ内1丁目2-1	088-824-5701)	条件/施設入館料
④高知県立高知城歴史博物館	(高知市追手筋2丁目7-5	088-871-1600)	条件/施設入館料
⑤高知県立坂本龍馬記念館	(高知市浦戸城山830	088-841-0001)	条件/施設入館料
⑥大原富枝文学館	(長岡郡本山村本山568-2	0887-76-2837)	条件/施設入館料
⑦地のもん市場ハレタ	(土佐市高岡町乙3308-1	088-852-1105)	条件/500円以上購入
⑧旧浜口家住宅	(高岡郡佐川町甲1472番地1	0889-20-9500)	条件/500円以上購入
⑨道の駅なかとさ	(高岡郡中土佐町久礼8645-2	0889-59-9090)	条件/500円以上購入
⑩風車の駅 津野町ふるさとセンター	(高岡郡津野町永野553	0889-55-2570)	条件/500円以上購入
⑪四万十市郷土博物館	(四万十市中村2356	0880-35-4096)	条件/施設入館料



◇特典2

アプリ内で高知出身の幕末の偉人「坂本龍馬」のキャラクターを贈呈  
(既に所持している場合はアプリ内ポイントまたはアイテムを贈呈)

高知県内におけるアプリユーザーの周遊促進&歴史観光による滞在時間の向上に期待！

各スポットでの条件達成を必須条件とし、県東部から西部まで広いエリアに点在する山城周辺のスポットに行く必要があることから、観光客の周遊促進・滞在時間の向上を期待しています。また、日本三大和紙のひとつ土佐和紙を使用したデザイン性のある訴求力が高い特典を用意することで、お城や歴史が好きなユーザーだけでなく県民や幅広い観光客の参加を見込んでいます。

【問合せ先】リョーマの休日キャンペーン推進委員会事務局

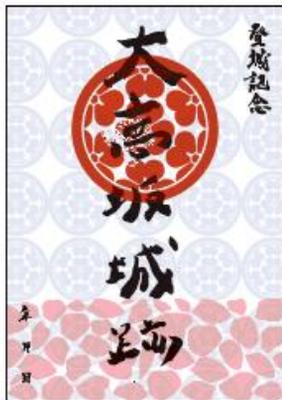
担当：高知県観光振興部観光政策課 船長、澤原

TEL：088-823-9143 FAX：088-823-9256

E-MAIL：020101@ken.pref.kochi.lg.jp

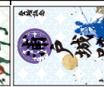
取材内容等や企画詳細については個別に対応させていただきます。上記連絡先までお気軽にお問合せください。

# 御城印2022一覽



「ニッポン城めぐり 土佐 城さんぽ御城印めぐり」御城印デザイン主旨

御城印に使用した紙は、日本三大和紙のひとつ「土佐和紙」を使用。土佐和紙は1000年以上前から作られてきた和紙で、清流の恵みを受けて原料の生産とともに製紙技術が発展した。

城	御城印	配付施設	城主	藩耕耨	テーマ
1 安芸城跡		安芸市立歴史民俗資料館	安芸国虎	浄貞寺 住職	安芸家の家紋「橘」を、安芸地域を治めてきた安芸氏の想い「重ね」(安藝)の文字に重ねることによって表現し、菩提寺である浄貞寺の住職からいただいた華文字を使用し構成。安芸城跡のお堀に咲く蓮の花をあしらっている。
2 回豊城跡		高知県立歴史民俗資料館	長宗我部元親	雪楽寺 住職	安芸城は長宗我部元親との戦後の戦いで安芸国虎が20日間籠城した城で、降伏後家族と家臣の命を保証し、菩提寺である雪楽寺で自盡した。
3 本山城跡		大原書枝文学館	本山茂宗	東光寺 住職	長宗我部家の家紋「丸に七つ方喰」を使用し、代々治めてきた回豊の地の文字に重ねることによって表現し、菩提寺である雪楽寺住職の華文字で構成。高知県立歴史民俗資料館に建つ元親の騎像と、元親の花甲をあしらっている。
4 大高坂城跡		高知県立高知城歴史博物館	長宗我部元親	長宗我部元親美弟の親房から17代目長宗我部家 当主 長宗我部友親氏	回豊城は長宗我部家が代々治めてきた「嘉強」となる城で、半土の一領員、足利を軍事力として組織し、四国全土をほぼ制覇するにまで至った。
5 高知城		高知城	山内一豊	山内家19代当主 山内豊功氏	本山家の家紋「丸に輪扁紋」に、御子孫や菩提寺に代々伝わる「八木」の名入りの家紋を配置し、菩提寺である東光寺住職の華文字を使用し構成。本山町の町名「桜」や城跡に咲く「シヤクナグサの花」をあしらっている。
6 浦戸城跡		高知県立坂本龍馬記念館	長宗我部元親	若宮八幡宮 久保千鈞 宮司	本山城は五千圓の所領を持つ土佐戦国七守藩の一人本山氏の居城として町の名に指定されている。城主本山氏の先祖である八木氏が知名にちなんで本山を名乗ったとされている。本山町の史跡として指定されている。
7 蓮池城跡		地のもん市場ハルタ	大平国雄	清瀬寺 住職	大高坂城は長宗我部元親の居城として、長宗我部地検帳にも「大テツノス」という記載から存在したとされている。
8 佐川城跡		旧浜口家住宅 (さかわ観光協会)	久武内藏助	乗台寺 住職	山内家歴代使用の家紋「丸に三葉柏」を配置し、山内家19代当主 山内豊功氏の華文字を使用し構成。高知城にある山内一豊の騎像と書状に残る花押をあしらっている。
9 久礼城跡		道の駅ひかたさ	佐竹信濃守	久礼八幡宮 宮司	高知城は、現存12天守の1つで、現存する天守と本丸御殿を残す日本唯一の城。土佐の風土にあわせた城造り（石積）があり、忍び返しが残存するのは高知城だけ。国の重要文化財に指定されている。
10 姫野々城跡		風車の駅津野町ふるさとセンター	津野繁高	聖言寺(しよおんじ) 住職	長宗我部家の家紋「丸に七つ方喰」を使用し、元親初陣のととき合戦駒寄りに戦勝を祈願した若宮八幡宮宮司の華文字を使用し構成。若宮八幡宮に建つ騎像、水運の要の地浦戸と波を、月の名所桂浜をイメージデザインしている。
11 中村城跡		四万十市郷土博物館	土佐一條氏 (一條親房・一條房家)	一條神社 川村公彦 宮司	浦戸城は長宗我部氏最後の居城として、羽柴秀吉の進める朝鮮出兵などに備える拠点として活用された。若宮八幡宮を西ノ宮とたえ、祭礼の儀式を執り行った。高知市史跡に指定されている。
					大平家の家紋「木瓜に三つ巴」を配置し、蓮池城跡の位置する土佐市に位置する四国八十八箇所第35番札所である清瀬寺の住職の華文字を使用し構成。蓮池を代表する蓮の花と、外港の土佐湾から大船を往来させた歴史から、太平洋の荒波をあしらっている。
					蓮池城は平家の有力家「蓮池氏」が築城したといわれている。土佐市史跡に指定されている。
					佐川城城主、久武内藏助の菩提寺 乗台寺の住職の華文字と名勝庭園を望む書院造の和室の火灯窓、居待月形の窓に、佐川町出身の田中光顕の短歌「葉」や牧野富太郎博士が愛したハイカオリンをあしらっている。
					佐川城は長宗我部元親の重臣久武内藏助が松尾城主となった後、城内の水不足を嫌、向かいの山に築いたのがはまりとされる。佐川町史跡に指定されている。
					佐竹家の家紋である「五本骨馬」に月丸を使用し、ゆかりのある久礼八幡宮の宮司の華文字で構成。久礼湾から昇るまほろ日と太平洋の波をあしらっている。
					久礼城は土佐一條氏の重臣佐竹氏の居城。中土佐町史跡に指定されている。
					津野家の家紋である「丸の内一文字」を使用し、菩提寺 聖言寺住職の華文字で構成。津野町に広がる天狗高原の星空と流れ星をあしらっている。
					姫野々城は別名、半月城と呼ばれ、津野氏代々の居城。津野町史跡に指定されている。
					土佐一條家の家紋「下り雁」を使用、一條親房が建立したとされる中村御所の跡地に一條代当主の霊を祀る一條神社があり、宮司の華文字で構成。一條神社にある藤懸「咲かすの藤」をあしらっている。
					中村城は別名、為松城と呼ばれ、一條親房が、荘園（備多荘）であった中村に下向し、元々この地にいた豪族の為松氏が家老として取り立てられ、その為松氏により築城。四万十市史跡に指定されている。